

分科会C議事録

テーマ：図書館のデザイン戦略

日 時：平成 22 年 5 月 29 日（土）

会 場：日本歯科大学 富士見ホール

参加者：113名

座 長：佐藤 淑子（東京女子医科大学図書館）

話題提供者：石井 保志（個人会員）

茂出木 理子（東京大学駒場図書館：元お茶の水女子大学附属図書館）

梅本 都（丸善株式会社）

記 録：浅沼 愛九（東京女子医科大学図書館）

議事要旨

I. 話題提供

続いて、3名の話題提供者から以下の講演があった。

1. 石井 保志（個人会員）

「図書館のアメニティー」

図書館員の接遇は他者から指摘されることが少なく、利用者から常に観察されている意識は希薄である。それらに気づき修正するには、他業種の視点を学び採り入れることは有益な一手段である。既存の施設や内部資源の再評価を試み、アメニティーやコミュニケーション技術の視点を学ぶことで、図書館サービスの向上を目指すことが可能と考えられる。

講演会「図書館のアメニティー」は1999年から2000年までの2年間で14回、22名の講師を迎えて行われた。テーマを概観すると 1)図書館のイメージ戦略、2)図書館員の接遇、3)館内環境の向上、4)図書館資料の見せ方、5)図書館の広報の5つのコンセプトに分類できる。

講演会を振り返って10年経つが現在もなお、図書館アメニティーの必要性は衰えていない。図書館員が共通に持つべき「図書館はこう在りたい」という目標を持つことが「図書館のデザイン」、「情報をデザインする」ことにつながるのだと思う。本日の分科会が接客姿勢や閲覧環境の向上を考えるきっかけになれば、と願っている。

2. 茂出木 理子（東京大学駒場図書館：元お茶の水女子大学附属図書館）

「ラーニング・コモンズについて」

お茶の水女子大学附属図書館（以下、お茶大図書館）では、ラーニング・コモンズの設置をはじめ、大学の動き、特に教育改革の取り組みと連動することによって様々な改善を進めることができた。ラーニング・コモンズの設置にあたってもっとも意識

したことは「イノベーション」である。これを図書館に適用するならば、①利用者の潜在的なニーズを感知し、②実現するためのモノ・サービスの提供をし、③利用者の行動、価値観の変化を誘導することではないだろうか。イノベーションを念頭に、お茶大図書館が学生のためにできることは何か？を考えに考え、自由に使える ICT 機器はラーニング・コモンズに、自由に企画・実行できる場所はキャリアカフェ、そして自発的に活動できるきっかけは LiSA (Library Student Assistant) へと具体化した。

お茶大図書館におけるラーニング・コモンズを改めて定義付けるならば「21 世紀型文理融合リベラルアーツ教育を象徴する場であり、学内の各部署が連携して運用すべき協働の場でもある」といえる。東京大学では、「アクティブラーニング」を導入した教養教育が進められており、図書館とは別な組織ではあるが、KALS (Komaba Active Learning Studio) という ICT を活用したスタジオ型教室が設置されている。

図書館のデザイン戦略ということ言えば、お茶大図書館では、職員同士でディスカッションし、「役に立って愛される、共感される、毎日接触してもらえる」そういう図書館に変わりたかったことに気づいたことが、一連の活動を進める大きな原動力となった。組織論的に言えば、「結果の質」からではなく、「関係の質」を深めることから議論を始めることで、職員同士の信頼関係を構築できたからこそ、図書館のデザイン戦略を実行に移せたと感じている。

3. 梅本 都 (丸善株式会社)

「新たな学習環境とラーニング・コモンズについて」

ここ数年、日本の大学図書館は大きく変わりつつある。この変化の要因は大学における学習環境の変化に起因していると思われ、①社会的要請—学士力、社会人基礎力の育成—②教養教育の復活③入試の多様化④IT 社会の急速な発展の 4 点が考えられる。これらは大学に講義から協調学習へ教育手法の変化をもたらしており、従前の 1 対多の講義形式からワークショップ型授業へ変化することに伴い、プレゼンテーションや IT を活用した学習が重視されるようになりつつある。

授業・学習の変化が図書館に影響を与えている。「静」と「活」が共存し、移動可能な家具、フレキシブルな空間、カフェ・ラウンジなどの交流施設、ライティング支援・セミナーなどの学習支援、各種の情報機器が活用できる空間、これらを統合した学習環境が大切になってきており、ラーニング・コモンズが注目されている。

事例として、2010 年 4 月に改修オープンした金沢大学中央図書館を紹介する。全体コンセプトは本をきっかけとした学びを支援する「ラーニングコモンズ・エクステンション」を掲げている。提案のポイントは①図書館ならではの本を生かした学びの場②金沢大学の個性を発揮できる空間③会話エリア・静粛エリアの切り分けが挙げられる。

その他の事例として、①学生の社会的成長を支援する滞在型図書館「学生協働サポ

ート体制」の構築を特徴とした東京女子大学図書館。②グループ学習や持ち込み PC 利用、プレゼンテーションの準備、論文・レポート作成など様々な学習用途に利用できることを特徴としている上智大学中央図書館。③オープンスペースでの授業や授業間の連携、教員同士のオープンな研究、そして教育の議論がなされ、それらの活動が常に見えている環境に特徴をもつ公立はこだて未来大学が挙げられる。

これからの学習環境は、様々な能力育成の手法を効果的に達成できるよう、施設・機器／装置・運用の総合的な計画化が必要とされる。

II. 質疑応答

以下の 3 つの質問があった。

Q1. (阪医 山田) ラーニング・コモンズの基盤にイノベーションという概念があることは非常に興味深かった。医学は実習中心の分野でもあり、テュートリアル教育やシミュレーション、OSCE など新たな教育手法について先進的に取り入れてきたが、すべて図書館の外でやっていることばかりである。何かこれらに対して先駆けて図書館が行っている取り組みはあるのだろうか？

A1. (茂出木) 図書館(員)の傾向として、真面目だが、アクティブな人が少ない、積極さを削ぐような職場環境といった面がありがちなのだが、そういった職員をうまく使うようなリーダーシップが必要である。また、図書館員を特別と思わず、大学構成員の一員として役割を果たすよう誘導することで、図書館が学内で孤立せず、一緒に参画していけることが重要だと思う。

Q2. (北療 田隈) 大規模大学においては話題提供にあったような大規模な改築やラーニング・コモンズなどの事例は適合すると考えられるが、本学のような小規模単科大学では違和感がある。これまで電子ジャーナル等ネットの影響で非来館型利用に移行していった利用傾向と逆行するような来館型にしようとしているのだろうか？また、10000 人規模の大学においては図書館改築程度の改革で足りるのだろうか？もっとインフラ面での拡充が必要なのではないか？また、これからの図書館は学生にとって「居心地の良い勉強部屋」というのを提供するのがデザインなのだろうか？

A2. (石井) 図書館のデザインや運用というのは図書館のポリシーで対外的にも説明されるべきで、図書館だからこそできる環境というのを模索するのが図書館デザインなのではないかと考える。

(茂出木) なにも全ての図書館でラーニング・コモンズをしなければならないというわけではないと考える。図書館だけの方向性だけではなくて、大学人としての役割を果たすために、各々の図書館がデザインを考えていくことが重要ではないか。

(梅本) 金沢大学の事例に見られるようにコーヒーを飲みながらディスカッションできるスペースを提供するのも 1 つの方向性を検討した結果だと考えられる。また、

リフレッシュできる環境が図書館内にあることで効率的な学習・研究に繋がるという考えに至った事例もあった。

Q3. (弘前 藤井) 先ほども指摘があったことですが、電子ジャーナルを購入して非来館型へ転向した後に図書館は学生のための勉強ルームを提供するということがありましたが、図書館で飲食をすることに私は反対の立場をとっている。なぜなら図書館では飲食できないが、生協で本は読めるためです。そこで感じているのは図書館の中にはいろいろとオプションはつけなくて良いのではないかということです。他でできることがあるならば全学でやれば良いのではないか？

A3. (石井) 私も賛成ですが、施設規模が大きい図書館ではないとラーニング・コモンズのような試みはできないかもしれない。ただ、図書館という狭いテリトリーに固執していくのではなく、変えるべきところは図書館外の大げさにいえば全学規模で検討して変えていければよいのだと思う。

(茂出木) 東京女子大学の事例を梅本さんが挙げてくれましたが、東京女子大では、職員の方から「職員数が減った中で、これだけの事務スペースは足りない。このスペースを利用者の方々へ提供したい」という考えから、実行に移したということを私は強く賞賛している。人間が関係性の中で存在するように、図書館も利用者や学内他部署との関係性から客観的に判断して先に進んでいくべきだろう。

III. 座長まとめ

アメニティという視点、ラーニング・コモンズという実践例、そしてコンサルティングを提供する立場から話題提供をいただき、質疑も闊達に行われましたが、図書館デザイン、とても身近なテーマですが、1つ1つ置かれた状況から何を重視していくかということがうかがえたかと思います。学習環境、大学の状況そして図書館の環境、これからもますます発展していくトピックだと実感できました。